

氏名	角 南 勝 利
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3817号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	腎移植後の特発性大腿骨頭壊死症について
論文審査委員	教授 清野 佳紀 教授 谷本 光音 教授 槇野 博史

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎移植後の大腿骨頭壊死 (ONF) 症は、発症すると多くは骨頭陥没の進行とともに二次性股関節症に至る。現在では、MRIによる早期診断が確立されるものとなり、予後予測が可能となってはきたが、その治療に際して苦慮することが多い。そのため発症前の危険因子を明らかにし、予防に努めることが重要である。1986年4月～1995年6月に高知県立中央病院外科で生体腎移植術を受け、1年以上生着した98例を対象とし、これをONF発症群 (ONF群) 13例と非発症群 (非ONF群) 85例の2群に分けて、年齢、性、BMI、透析期間、多数回移植、臨床検査値 (術前及び術後早期) との関連を後見的に調査し、統計学的に比較した。その結果、術前および術後4週の総コレステロール値はONF群が有意に高値であった。術前のCD8はONF群が有意に低く、CD4/CD8比は有意に高値であった。また2回目の移植例では4例中3例 (75%) と高頻度にONFが発症した。以上の結果より、腎移植後のONF発症と術前のコレステロール高値、過去の移植歴、免疫能の異常との関連が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、腎移植後の大腿骨頭壊死 (ONF) 症に関して、現在ではMRIによる早期診断が確立され予後予測が可能となってきたが、その治療に際して苦慮することが多いため、発症前の危険因子を明らかにし、予防に努めることが重要であるとして行われたものである。

生体腎移植術を受け、1年以上生着した98例を対象とし、これをONF発症群 (ONF群) 13例と非発症群 (非ONF群) 85例の2群に分けて、年齢、性、BMI、透析期間、多数回移植、臨床検査値 (術前及び術後早期) との関連を後見的に調査し、統計学的に比較した。その結果、術前および術後4週の総コレステロール値はONF群が有意に高値であった。術前のCD8はONF群が有意に低く、CD4/CD8比は有意に高値であった。また2回目の移植例では4例中3例 (75%) と高頻度にONFが発症した。

これらの結果は、腎移植後のONF発症と術前のコレステロール高値、過去の移植歴、免疫能の異常との関連を示唆するものであり、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。